共創学会年次大会の原稿執筆の手引き (和文タイトル)
- サブタイトル -

○共創　太郎1，共創　花子2

1 共創大学 共創学部，2 共創研究所 共創研究部門

Instruction for Proceedings of the Conference on Cocreationology
 - Sub title -

○Firstname Lastname1, Firstname Lastname2

1 Department of author, Institute of author, 2 Department of author, Institute of author

**概要：**本稿では，共創学会年次大会の予稿原稿を執筆するために必要となる，用紙レイアウト，本文の書式，図表の書き方，参考文献の書式等について説明する．また，本稿には学会指定の書式がテンプレートとして設定されているので，この書式に従って執筆することで，学会指定の体裁で論文を執筆することができる．

**キーワード：**共創学会，年次大会，書式，テンプレート

**Keywords:** Society for Cocreationlogy, Annual conference, Text style, Template

1. はじめに

本稿では共創学会年次大会の予稿原稿を執筆するための説明を行う．このテンプレートには，表題，著者名，本文などはあらかじめ本学会指定のフォントサイズなどの書式が設定されており，スタイルとして登録されている．この書式に従って作成すれば，文字数，行数など定められた体裁で論文を執筆することができる．

原稿1編当たりのページ数は，2～4ページとし，年次大会HPより PDFファイル形式の原稿ファイルを電子投稿する．

1. 原稿執筆方法
	1. 用紙サイズ，余白

用紙サイズはA4 (縦297 mm×横210 mm)とし，余白部分は左右15mm，上20mm，下27mmを確保する．したがって，原稿作成領域は縦250mm×横180mmの枠内となる．ヘッダ，フッタ部分は実行委員会で編集するため，ページ番号等の記入，編集をしてはいけない．

* 1. 言語

原稿の言語は日本語または英語とする．

* 1. タイトル

タイトルは，和文をゴシック体，英文はArialを標準として，16 points の太字を用い，左右中央揃えで配置する．英文原稿の場合，和文タイトルは削除する．

* 1. 著者名

著者名は，和文を明朝体，英文はSerif系(Times New Roman等)を標準として，12 pointsを用い，左右中央揃えで配置する．著者名の右肩に所属に対応した番号を付け，登壇者の前に○印を付ける．英文原稿の場合，和文著者名は削除する．

* 1. 所属

所属は，和文を明朝体，英文はSerif系(Times New Roman等)を標準として，10 pointsを用い，左右中央揃えで配置する．英文原稿の場合，和文所属は削除する．

* 1. 概要

原稿には本文の前に和文の概要を載せる．概要には研究目的と結論を必ず記述し，和文概要は300字程度，で作成し，概要の途中で改行は挿入しない．フォントは，明朝体を標準とし，10 pointsを用いる．

* 1. キーワード

和文，英文それぞれの概要の直下に，3～5語で和文および英文のキーワードを載せる．フォントは，和文を明朝体，英文はSerif系(Times New Roman等)を標準とし10 pointsを用いる．英文原稿の場合，和文キーワードは削除する．

* 1. 見出し (章，節，項)

見出しは章，節，項に分け，フォントはゴシック体，Arialを標準とし，10 pointsを用いる．見出しのスタイルをTable 1にまとめる．章と章の区切りには，改行を1行挿入する．

* 1. 本文

本文は2段組とし，段の幅を85mm，段の間隔を10mmとする．フォントは明朝体，Serif系(Times New Roman等)を標準とし，10 pointsを用いる．各段落の1行目は1字下げする．文書の区切りには全角の読点「，」（カンマ）と句点「．」（ピリオド）を用いる．本文のスタイルをTable 1にまとめる．

* 1. 図・表

本文中では，Fig. 1，Table 1のように書く．写真は図として扱う．図のキャプションは，図の下にFig. 1，Fig. 2のように，表のキャプションは表の上にTable 1，Table 2のように記載する．キャプションのフォントは，明朝体，Serif系 (Times New Roman等)を標準とし，10 pointsを用いる．キャプションが1行の場合は左右中央揃えで， 2行以上に渡る場合は両端揃えで図番を除いた部分の先頭を揃える．



Fig. 1　図の使用例



Fig. 2　図の使用例．キャプションが2行以上の場合は，両断揃えで説明文の先頭を揃える

* 1. 謝辞

必要に応じて，謝辞を記載する．フォントは本文に準じ，見出しには章番号を付与しない．

* 1. 参考文献

引用した文献は，以下の書式に従い，英文誌・洋書の場合はアルファベット順，和文誌・和書の場合は50音順で本文末尾にまとめて記載する．フォントは，明朝体，Serif系 (Times New Roman等)を標準とし，8 points を用い，各文献の2行目以降を5 mm字下げする．参考文献の見出しには章番号を付与しない．

本文中では[共創2017]のように参照する(例：共創らは・・・と報告している[共創 2017]．)．ただし，著者名の直後に参照を挿入する場合は，[]内の著者名を省略してもよい(例：共創ら[2017]によれば・・・)．

* + 1. 参考文献の書式

(論文の場合)

著者名 (発行年). タイトル. 雑誌名, 巻(号), 開始ページ-終了ページ.

(書籍の場合)

著者名 (発行年). タイトル. 書籍名, 出版社, 開始ページ-終了ページ.

(Webサイトの場合)

WEB所有者名 (発行年). 記事タイトル(無い場合は省略). URL, last accessed on Month. Day, Year.

* + 1. 著者名の書式

英語文献の場合， 著者はFamily name, First nameの頭文字の形式で記載する．著者が複数名の場合，著者名間はカンマで区切り，最終著者はandで接続する．

日本語文献の場合，姓名の間に空白を空けず，姓名の順で記載し，著者名間はカンマで区切る．

1. 結言

本稿は，共創学会年次大会の予稿原稿を執筆するためのガイドラインをまとめたものである．

謝辞

本テンプレートを参考に共創学会年次大会にて原稿を投稿される全ての方に御礼申し上げます．

参考文献

Watanabe, T., and Miwa, Y. (2012). Duality of Embodiment and Support for Co-Creation in Hand Contact Improvisation, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 6(7), 1307-1318.

西洋子, 三輪敬之 (2016). 被災地での共創表現と共振の深化 ―このフィールドは、何を語りかけているのか―, アートミーツケア学会オンラインジャーナル, 7, 1-18

三輪敬之, 藪野健, 尾島俊雄 (2012). ワボットのほん―ロボットの進化と人間の未来, 中央公論新社, 10-20.

共創学会 (2018). 共創する文化の発信を, https://nihon-kyousou.jp/about/, accessed on 7.31, 2018.

Table 1　表の使用例 (本文，見出しのスタイル)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 見出し・章 | 見出し・節 | 見出し・項 | 本文 |
| スタイル名 | 見出し・章 | 見出し・節 | 見出し・項 | 論文 |
| フォント | ゴシック体，Arial | ゴシック体，Arial | ゴシック体，Arial | 明朝体，Serif系 |
| フォントサイズ | 10 points | 10 points | 10 points | 10 points |
| 字体 | 太字 | 太字 | 太字 | なし |
| 番号 | 1，2，3，... | 1.1，1.2，1.3，... | 1.1.1，1.1.2，... | なし |
| 行間 | 行間15 points段落前 1行段落後 3 points | 行間15 points段落前 3 points段落後 3 points | 行間15 points段落前 3 points段落後 3 points | 行間15 points段落前 0 points段落後 3 points |